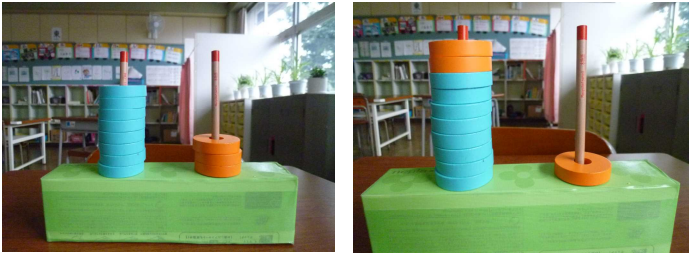


教材・支援機器活用実践事例

【数の合成・分解でつまづく子どもへの支援】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	算数科
	単元・題材名	たしざん
	授業における 教師のねらい	○操作を通して、10の補数に目を向けさせ、10のまとまりを理解させる。
	授業における 子どもの目標	○操作を通して、10のまとまりを作り、計算できるようにする。
子どもについて	学校・学級・学年	小学校 特別支援学級 2年、3年
	対象の障がい	知的障がい
	授業の形態	個別学習
学習上又は 生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○2年生は、数の概念の理解が難しく、5をとるにも5の集合数ととらえることができず、すべて1から数える。 ○3年生は、13-8などの繰り下がりのあるひき算では、数え引きで解答する。10のまとまりから考えることが難しい様子が見られる。
教材・支援機器 活用	使用した支援機器 ・教材の名称	縦に積むことのできる計算積み木 
	活用のねらい	○児童が操作しやすい大きさのブロックを縦に積むことで、10という数の大きさをつかませる。また、2色のブロックを使うことで、たす数とたされる数を区別できるようにし、どのように移動させたのか視覚的に分かりやすくし、数の合成・分解が理解できるようにした。
授業における支 援・教材の配慮	○操作の仕方をいっしょに口にしながら操作させる。 ○本教材のほか、たまごパックやブロックなども準備し、操作しやすい教材、分かりやすい教材を使う。	
子どもの変容や 評価	○ブロックや卵パック教材の使用では混乱してしまった子どもたちも、本教材では2色を使うことで、何個と何個をたしたのか、どのように移動して答えを導いたのかを少しずつ理解できるようになってきた。	